

720ml Rびんをご使用の事業者のみなさまへ

容器包装の3Rを進める全国ネットワーク  
運営委員長 須田春海  
副運営委員長 中井八千代

## 720mlRびん調査回答への御礼とお願い

この度は、わたくしどもからお願いした質問に対し、ご協力いただきましてありがとうございました。全体で68社にお願いしたところ、なんらかのご回答を頂いた事業者は25社(37%)となりました。改めまして御礼申し上げますとともに、ご回答の概要をお知らせします。詳細は一覧をご覧ください。

### 【1】初回質問への回答の概要

1. 使用本数は(社により幅がありますが)、数千本～150万本/社程度。再使用本数は0～40万本程度。
2. 再使用比率は、0～60%程度(平均39.4%)  
⇒平均は39.4%でしたので、比較的再使用比率の高い事業者からご回答いただいたと推察されます。  
⇒本数は少ないので除外しましたが、一部には再使用比率100%の事業者もありました。
3. 再使用の割合が低い主な理由は、以下のとおり。  
⇒納入業者が洗いびんを扱っていない(購入ルートがない)。  
⇒洗いびんの供給が少ない(回収数が少ない)。  
⇒びんに傷が多い・びん口が欠けやすい(不良びんが多い・効率が落ちる・クレームになりやすい)。
4. 再使用の割合を高めるための改善策の主な事例は以下のとおり。  
⇒法律で義務付ける。  
⇒消費者へPRや店頭回収などによるシステムを構築する(回収用のP箱を用意する)。  
⇒びん口を一升びんと同じように丈夫にする。

### 【2】追加質問への回答の概要

1. 「720mlRびんの回収呼びかけ」について  
⇒ほとんどの事業者で、消費者への積極的な呼び掛けは実施されていませんでした。
2. 「安いワンウェイびんにしたほうがよい」については  
⇒そう思うとの意見が多く、とくに強度不足に懸念を抱いている事業者が多くいることがわかりました。
3. 「一升瓶と同じびん口にする」について  
⇒すでに実施している事業者や今後使用する、使用可能との回答など、賛成意見が多数でした。  
⇒資材在庫・管理を考えても1種類で済むのでよいなどのご意見もありました。
4. 自由意見では、「720mlRびんを扱うびん業者が少ないこと」、「720ml用P箱の普及も必要であること」、「普及には国の役割が重要であること」などの指摘がありました。

以上のことから、いまの720ml Rびんには強度上の課題等があるため、再使用が進まない現状にあることがわかりました。また、再使用しないのであれば、むしろ安いワンウェイびんにしたほうがよいと考える事業者が多数であることもわかりました。ガラスびんは再使用してこそ、CO<sub>2</sub>や廃棄物の削減に貢献するのであり、1回で使い捨ててしまうと逆に環境負荷を増大してしまいます。

つきましては、ぜひともびん口を一升瓶と同じにしてびん口の強度を高め、一升瓶と同じようにくり返しに耐えうる強度(びん重量)を持たせたリユースびんに改良していただくことを希望いたします。

びんのリユースは、びんに充填する生産者、消費してびんを戻す消費者、空びんを回収する事業者の3者の協力により成り立ちます。このようなりユースに相應しいびんで製造して頂ければ、私たちも消費者への啓発に取り組みたいと存じますので、ぜひ、ご検討いただけますようお願い申し上げます。